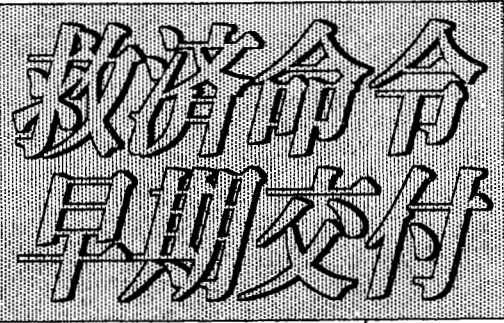


## 「予科生運転士登用差別事件」

# 求め中労委に要請



動労千葉は、二月二十九日、一時より、中央労働委員会に対して、「予科生等運転士登用差別事件」の早期命令交付を求めて署名提出及び要請行動を行なった。

昨年末から運転職場及び組合員が強制配転されている営業職場等において、強制配転者や予科生の仲間たちが先頭になって集めた「早期命令交付を求める要請署名」は、一四七二名に達した。しかも、JR総連に所属する多くの運転士をはじめ組合所属の枠を超えて署名が寄せられるなど、JRの組合差別に不当労働行為に対する批判の声として一四七二名に及ぶ署名が集められた。

### 「特例」として扱うことが明らかに

中労委に対する要請行動は、動労千葉側から担当の広瀬、鈴木両弁護士及び各支部代表も含めて一五名が参加し、中労委側からは審査室次長、審査課長など四名が出席する中で行なわれた。

一四七二名に及ぶズッシリとした署名が田中書記長から中労委側に手渡された後、組合側から、

- ① 予科生等については、同期の運転士と賃金上の格差が拡大する一方になっている、
- ② 運転士に登用するとしても四〇才を目前にしており、今時点での解決でなければ問題にならない、
- ③ 本件命令の早期交付が全て

の問題の解決に向けた近道である、

④ ILO勧告も出されていることから早急に作業を進めてもらいたい、とする要請を行うとともに当該者や職場の現状を明らかにして命令の早期交付の重要性を訴えた。

① 中労委にかかっている二七〇件のうち半数がJR関係であり、不採用事件に続き配属関係の事件について命令作業を行なっている、

② 中労委命令が、労使関係に一定のインパクトを与えると感じている、

③ 組合側からの、プライドを重視してもらいたい、という言葉を重ね受けとめている、

④ 命令作業については、時系列順ではなく、「特例」扱いとして進めたい、

との考え方が示されるなど「運転士登用差別事件」が中労委の場においても重要な事件として受けとめられ、作業が進められることなどが明らかにされた。

### JR総連解体—組織拡大に全力を

JRにより人生の中でも一番重要な時期を理不尽に踏み躪られ差別されてきた強制配転者を原職に取り戻すためにも、本件の早期命令交付を求めさらに職場での闘いを強化しよう!

二〇〇〇年春闘をストライキで闘いぬぎ、JR総連解体—組織拡大の実現に向けて全力で闘いぬこう!

## 運転保安プロジェクト—

### 第一回規程問題検討会開催

# 規程のあいまい化許さず 運転保安の確立を!

2月24日、乗務員分科会を中心として、「運転保安プロジェクト/第一回規程問題検討会」が開催された。

これはJR発足以降、運転保安に係わる諸規程が改悪され、あいまい化され、あるいは拡大解釈された運用により安全が脅かされている。こうした状況について、ハンドルを握る立場からその問題点を検討するために開催されたものだ。

### 規程のあいまい化

とくにこの間、信号機故障をめぐって明らかになったように、規程の勝手な解釈が行われ、しかもそれが現場には全く知らされないままマニュアル化されて指令だけに置かれているような現状や、規程を無視した指令が日常化するなどの現状は目にあまるものがある。

討議のなかでは、「国鉄時代の基準規程が「運転取扱い心得」に変わってからは、細分化されて厳格に定められていたものがひとつに括られてしまい、その範ちゅうのなかでの解釈になってしまった。その結果、担当によって少しづつニュアンスが変

わり、しかもその場その場で勝手な指示が行われ、後からその判断が良いとか悪いとか言われることが多くなった。「指令は上の根拠など関係なくその場のりきるための指示を行うことがあたり前になってしまっている」「規程上には定めがないような用語が勝手につけられて指示され、その意味や根拠を聞いても回答がない」等、規程の運用などに関する現状の問題点が多くだされ、その後具体的な議論に入った。

### 運転通告等で議論

今回は、運転通告に係わる問題を中心とした議論が行われた。運転通告券(通告受領券)の具体的な範囲、運転時刻変更の考え方、無通告着線変更の考え方、通告とその解除の考え方、時刻表も交付しないまま「臨時客扱い」という指示が行われていることについてなど、活発な議論が行われた。

第一回検討会は、検討結果に基づき申し入れ交渉も含め、今後も運転保安の確立に向けて継続した議論を重ねることを確認して終了した。